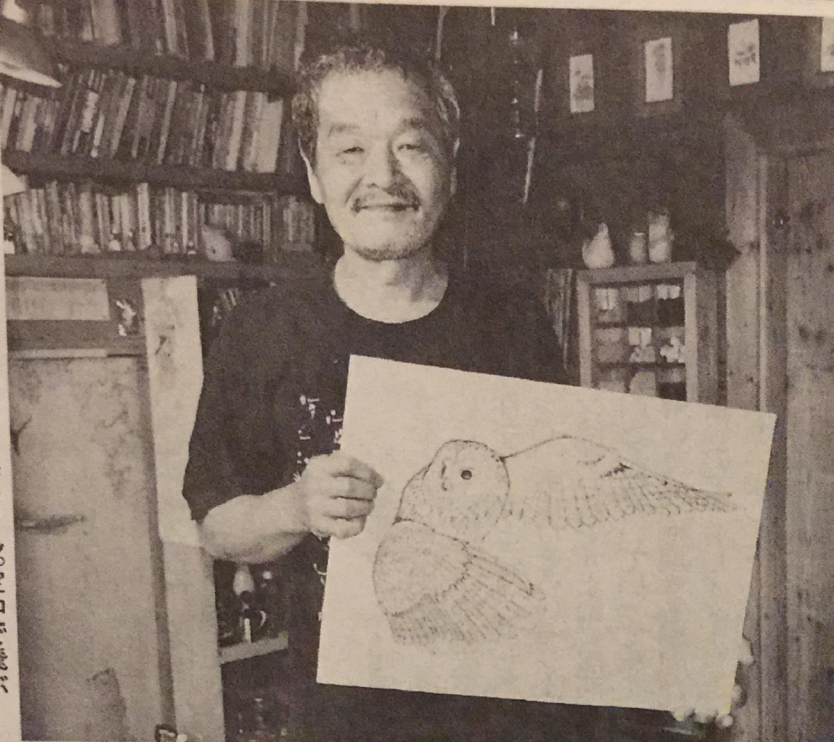


# 生きものと生きる

動物画をかく元飼育員 浜田 宗治さん

まるで動物たちの手ざわりやぬくもりまで伝わって、きそくだ。浜田宗治さん 木の板を電熱ペンで焼き、

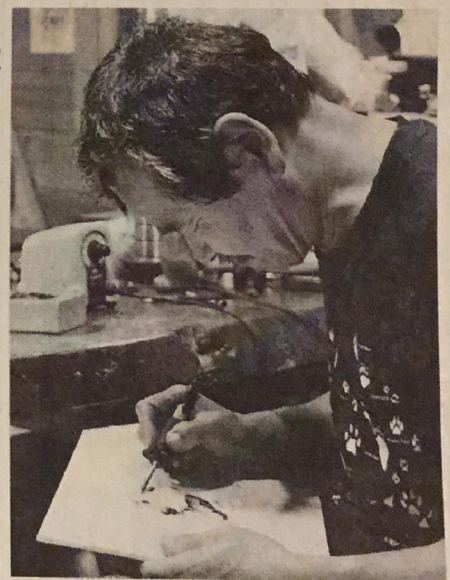


お気に入りの1枚、フクロウの絵と浜田さん。空中で飛ぶ方向をかえるところをかいた。長野県塩尻市の浜田さんの自宅

毛なみを一本一本かきこむ。ウッドバーニング(こがし絵)というかき方だ。

浜田さんはおとし春まで長野(ながの)県松本(まつもと)市の動物園の飼育係(しいくがかり)。それが絵に生きている。

大阪(おおさか)で生まれ育ち、20歳(さい)のとき旅に出た。牧場や農家、スキー場や山小屋で働いて3年以上、全国を歩いた。



電熱ペンで犬の絵をかく浜田さん。根気と集中力がある仕事だ。長野県塩尻市の浜田さんの自宅

けれど、本当になれるとは思ってなかった。自然の中でくらしたく、ウッドバーニングに出合

## ぬくもりや手ざわりまで

### 木をこがした絵で伝える

松本に住み着いたのは「高て、13年前、長野県塩尻(しじり)市(し)の山あいにひったのは去年春、たまたまつか住みたいと思っていたから」。

30歳をすぎたころ、病気になる動物園の職員(しいくがかり)のかわりに、飼ふるは露天(ろてん)ぶらた。育係(しいくがかり)とした。

冬はきびしく冷えこみ、雪もふる。「でも寒いのは苦にならないし、雪のふら奮(こうふん)してねむれ

なかった。あくる日からずうっと電熱ペンで絵をかき続けた」

中学では美術部。絵かきになりたいと思った。「木も好きです。木に絵をかくのは、好きなものに好きなものを重ねることなんです」

絵をかくアトリエは木の上のツリーハウス。これも自分でつくった。「ここだとよいいなことを考えずに集中できる」

飼育係になり、山の中でくらし、絵をかき…。「努力もしいのにやりたいことができた。自分の好きなものを見つけた。大事だと思つ。きらいなことは努力しなければいけないけれど、好きだったら努力しなくてもやってしま

「まわりが緑だから、ちよっと外に出ると、シジュウカラが鳴き、コオロギの音が聞こえる。それだけで幸福感にひたれます」(文・写真、佐々木央)